

## ジャン＝ギアン・ケラス先生による マスタークラス開催!

～サントリーホール リハーサル室にて～



10月20日、ジャン＝ギアン・ケラス先生をお招きして日本チェロ協会主催公開マスタークラスを開催しました。場所はサントリーホールリハーサル室で聴講のお客様30名限定で行いました。

ケラス先生は演奏者の隣りでお座りになったままではなく、客席の後ろ側に立ってご覧になったり体を動かすエクササイズを交えながら、各受講者に合ったきめ細かいアドバイスをされていました。聴講の皆様もよく見えるように立ったり場所を移動する方もいらっしやりに熱心に聴かれています。

ケラス先生のチェロに対する考え、姿勢と心のこもった指導に受講者、聴講者とも感動している様子が伝わってきました。

当日のプログラムと受講者4名の受講レポートをここに紹介します。

### 受講者レポート

#### 持田遥さん

この度はジャン＝ギアン・ケラス先生の公開マスタークラスを受講させて頂き、大変感謝しています。公開レッスンを受けるのは初めてで緊張していたのですが、アットホームな暖かい雰囲気の中で弾かせて頂く事が出来ました。

レッスンでケラス先生は「音楽は歌う事と同じくらい語りか

### ジャン＝ギアン・ケラス チェロ公開マスタークラス

2005年10月20日(木) 18:30 開始  
サントリーホール リハーサル室

講師：ジャン＝ギアン・ケラス  
Prof. Jean-Guihen Queyras

通訳：藤本 優子  
Yuko Fujimoto, interpreter

<1> 18:30～19:05

持田 遥 (桐朋女子高等学校音楽科 在学)

Haruka Mochida

J. S. バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番

J.S. Bach: 6 Suites für Violoncello allein BWV1007

<2> 19:05～19:40

鎌田 茉莉子 (志木市立志木中学校 在学)

Mariko Kamata

サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番 イ短調から 第1楽章

Camille Saint-Saëns: Concerto pour Violoncello et Orchestre op. 33

\*\*\* 休憩 (15分) \*\*\*

<3> 19:55～20:30

藤井 泉 (桐朋学園大学音楽学部 在学)

Izumi Fujii

ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第3番 イ長調

Ludwig van Beethoven: Sonate für Violoncello und Klavier Nr. 3 op. 69

ピアノ/伴奏：佐藤彰子

<4> 20:30～21:05

夏秋 彩 (東京芸術大学大学院 在学)

Aya Natsuaki

レーガー：無伴奏チェロ組曲第2番 二短調

Max Reger: 3 Suiten für Violoncello allein op.131c



写真：御堂義典

◆ ジャン＝ギアン・ケラス Jean-Guihen Queyras ◆  
1967年モントリオール生まれ。ロストロポーヴィチ国際コンクールMost Promising Young Artists賞、ミュンヘン国際コンクール第9位受賞。1990年ブレイズに転向。2001年までアンサンブル・アンタルゴツァン・ボランのソロ・チェロ奏者を務め、1995年ドイツ・グラモフォンよりCDデビュー。2002年グレン・グールド国際プロテジェ賞受賞。現代音楽の第一人者として自身の知識を持っており、2005年ザルツブルグ放送交響楽団および録音ドイツ放送交響楽団との共演で新曲初演。1995年ブレイズ・フェスティバルで初来日。2000年サントリーホール「国際作曲委嘱シリーズ」において、ジルベール・アミの新作「チェロとオーケストラのための協奏曲」を初演。2002年3日連続の無伴奏リサイタル「天」「地」「人」で日本の音楽界にセンセーションを巻き起こす。ドイツ・シュトゥットガルト音楽大学教授。

主催：日本チェロ協会 / 協力：サントリーホール



ける事も大事で、初めてその曲を聴く人にも音楽の中の大事な言葉を語り、物語を作っていくことが大切だ。」と教えて下さいました。それには、自分の身体を自由で自然な状態にして弾けるようにする事が重要で、その為のエクササイズとして、弓を置いて腕でバレエの様に音楽の流れを表現してみる等色々な方法を教えて頂き、とても勉強になりました。また「自然で自由な状態で弾く事が、聴いている人全てを腕の中に包み込む様な演奏が出来る事につながっていく。」という言葉もとても印象的でした。

自分のレッスンだけでなく、他の方のレッスンも聴けた事が大変勉強になりました。今回学んだ事をこれからの勉強に活かして、一生懸命やっていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

### 鎌田茉莉子さん



サンサーンスのチェロ・コンチェルトの第一番第一楽章を弾きました。

私は、弾いているとき手首が硬いそうです。そこで、ケラス先生は、手首を柔らかくするいくつかのエクササイズを教えてくださいました。

1 まず弓の先端を下げる

2 解放弦で弓の先端に向かってしなやかに音を出す。

ポイント... 指先で音を作るようなイメージで、弓が自然に走っていくように。

このエクササイズで、最初のEが力まらずに弾くことができました。手首についている余分な力を抜くことで、「力」から「重み」に変わっていったと思います。

フォームについても一つ、下を向かない方が良いことを教わりました。私の演奏は、礼儀正しくて堅苦しいそうです。コンサートで弾くときは、お客さん全員を腕の中に抱えるようなイメージを持つ方が良いことを教わりました。普段から舞台に出るときは、前列の人しか見ず、下ばかり向いてしまっているので、次からはそのイメージを思い浮かべながら弾きたいと思えます。それによって私の演奏は変わることができるでしょう。

ケラス先生のレッスンを受ける前、とても緊張していました。なぜかというと、外国の先生に教わることは初めてだからです。先生の質問に答えられなかったらどうしよう、ということと、先生が直したところをすぐに弾けなくて、他の場所にも活用できなかったらどうしよう、とその2つが頭の中を駆けめぐって

ました。前回のケラス先生のマスタークラスを見て、もし自分だったら.....と考えてばかりでした。しかし、その心配は杞憂に終わり、先生は根気強く何度も教えて下さいました。

それと、いつも私はハッキリした発音を心掛けていたのですが、フレーズの中で全部同じ音（アーティキュレーション）で弾いてしまわないで、和音から和音へ運んでいくように引っ張っていくということを教えて頂きました。私は途中で余韻を残さず、ブツと切ってしまう癖があるので、残響に身をまかせように、円を描くように感じるということにも通じていると思います。

一番印象に残っている事は、これまで私はソリストの方というのは、自分の感じるままに音楽を表現して、それを世間が受け容れてくれる人だと思っていました。でもケラス先生は「音楽の黄金律」があって聴衆に良く聞かせる、退屈させない工夫を常に心掛けていらっしゃるということでした。

最後に、ケラス先生や通訳の方ももちろんですが、不慣れな私に親切にして下さった日本チェロ協会とサントリーホールの方々に感謝したいと思います。どうも有り難うございました。

### 藤井泉さん

今回、私はベートーヴェンの3番のソナタを見て頂いたのですが、まずケラス先生はこの作品に対する深い思想を語って下さり、それから私の演奏についてとてもメロディックだけれど、全ての部分においてメロディを意識しすぎたかもしれない、と指摘されました。特に最初のチェロのテーマについて、私は今までとても上品なピロードの布をまとった王侯貴族のような人物がゆったりと登場するイメージを持っていて、どちらかという朗々とうたっていたのですが、先生の意見は、このテーマは「エニグマ」つまり謎かけで、これは一体何なのだろう、自分は一体どうすれば良いのだろうといった心の迷いを表している、というものでした。この考え方は私にとって全く新しい発想だったので、とても新鮮で参考になりました。後日ケラス先生がコンサートでこの作品を演奏されたのを聴き、冒頭に提示される謎の答えを探しつつ、楽章の最後でついにそれが解決されていく様子が手に取るように感じられ、ケラス先生の作品に対する哲学的な思想の深さを改めて実感しました。

そしてもう一つ学んだ事は、全体の構成を考え、ドラマティックなところを引き立たせる為にはもう少しシンプルにうたう場所も必要だ、という事です。細かいフレーズも全てうたいたくなってしまう私にとってこれはとても難しいのですが、これからは曲全体を見てどこを一番主張したいのかをちゃんと考えていくべきだと思いました。

それから全体の印象として少し残念だったのは、受講時間が短かったため少し慌しい雰囲気になってしまった事です。全員、これから核心に迫れるかな、という所で時間が来てしまい、ケラス先生も少し残念な表情を浮かべていらっ



した。

とはいってもこの様な貴重な経験をさせて頂いたことは本当に幸せなことなので、今回学んだものをこれからの演奏に存分に生かしていけたら、と思っています。そして最後に、受講前にとても緊張していた私にケラス先生はとでもくったくのなない笑顔で挨拶して下さい、その表情に彼のいかにも優しい人柄がにじみでているのを感じると同時に、自然と緊張がほぐれとてもリラックスして演奏が出来た事も付け加えておきます。

### 夏秋彩さん

先日はケラスさんのレッスンを受講させて頂き、本当に感謝しております。自分のレッスンはもちろん、他の方のレッスンを全て聴講できたことは、私にとって本当に有意義なものでした。ケラスさんのアドバイスはいつも的確で、問題に対する解決策が簡潔で曇りがなく、本当に驚きました。

特にはっとさせられたのは、ケラスさんがおっしゃった、「どんな状態の自分も受け入れる」という言葉でした。具体的には音程をとるための練習をする過程でのアドバイスでした。何か出来ない事があるとき、それを真っ直ぐに受け止め、しっかり味わうことは、決して楽なことではないですが、それが出来

なければ、自分の中に「何かが出来ていない」と認識させる事はできないのだと、気付きました。全く当たり前の事もかもしれないのですが、今回のレッスンを受けていなかったら、一生そのことに気付かず、人生を終えていたかもしれないと思います。そのことは、チェロを弾くという行為以外の面での、自分にもあてはまることでした。自分のなかの意識がある時突然ガラリと変えるという事はなかなか出来ませんが、今回のレッスンを受けた事によって、自分に対しての意識が前より明確になり、自分自身の変化を敏感に感じ取れるようになったと実感しています。

今回のレッスンを受講する機会を与えてくださったチェロ協会の方々、ケラスさん、通訳の方、ホール関係者の方に、心から感謝しています。ありがとうございました。



# チェロサロン 開催！ 9月25日(日)



9月25日(日) ドナルド・モリーン先生によるチェロサロンが開催されました。当日心配されていた台風も免れ、演奏者、聴講者7名ずつお集まりいただきモリーン先生の作曲家にまつわるエピソードに耳を傾けながらクリニック、アンサンブルを楽しんでいらっしゃいました。

- 日 時 9月25日(日) 14:00 ~ 16:40
- 会 場 サントリーホール・リハーサル室
- 参加費用 会員：無料、非会員：1000円
- 講 師 ドナルド・モリーン先生(シカゴ交響楽団チェロ奏者)
- 通 訳 奥貫裕子
- 参加人数 20名
- 敬称略 講師1名、通訳1名  
会員5名(石島栄一、河野美也、末松悦子、長浜光子、福代茂) 非会員9名、事務局4名

モリーン先生からのメッセージを奥様、清水亜由子さんの和訳でお届けします。

### 【タイムテーブル】

時 間	内 容	詳 細
13:45	受付	出欠チェック
14:00	開始、自己紹介	
14:10~15:10	クリニック	クリニック受講者： 4名
14:10	福代 茂さん	Beauty and the Beast
14:25	丹野 陽介さん	ゴルターマン：協奏曲第5番
14:40	河野 美也さん	ポッパー：ハンガリアンラプソディー
14:55	石島 栄一さん	パガニーニ：モーゼの主題による変奏曲
15:10~16:10	アンサンブル モリーン先生 / 石島栄一さん / 河野美也さん / 末松悦子さん / 長浜光子さん / 竹内貴博さん モリーン先生 & 石島さん	Gruetzmacher : Conccration Hymn Handel : Grave and Fugue for Three Cellos Vivaldi : Concerto in G minor for two cello
16:10	懇親会	
16:40	終了	

## 日本チェロ協会チェロサロンに招かれて



学生時代NYチェロソサエティに入会し、非常に貴重な経験であったことを思い出しました。あの頃Leonard Rose、Luigi Silva、Raya Garbousova、Mstislav Rostropovitchなどの名奏者のリサイタルを聞いたことはよく覚えています。その後シカゴ交響楽団の奏者となり、38年間にYo-Yo MaやLynn Harrell、また世界中のチェロ奏者と知り合う機会ができましたが、それとは別にシカゴチェロソサエティの役員として、このような偉大なアーティストと非公式で、よりリラックスした雰囲気の中で交流することができました。

このような経験もあり、日本に住んでいる今、9月25日にサントリーホールで開かれたチェロサロンへ招かれたことを大変嬉しく思います。出席された参加者の方々は、チェロに対する熱意とレベルの高い演奏を示して下さいました。

### 第1回評議委員会実施

遅れ馳せながら今年度初めての評議委員会が10月7日(金)サントリーホール会議室で行われました。7名の評議委員にお集まりいただき、5月に開催されましたチェロコンGRESの実施報告他以下の議題について話し合いました。

〔出席者〕 敬称略  
(会長) 堤  
(評議委員) 中島、堀、倉田、斉藤、毛利、山崎  
(事務局) 飯田、竹田、八反田、溝口

〔議題〕  
1. インターナショナル・チェロ・コンGRES・イン神戸の実施報告  
2. 2004年度会計監査実施報告  
3. 協会への問合せと対応  
4. その他

### 《予告》チェロサロン・イン京都!

ちょっと先になりますが、来年2006年4月上村昇先生を講師にお迎えし京都で開催することが決定致しました。東京以外での開催は、2003年8月に酒井淳先生主宰で名古屋で開催して以来、2年半以上ぶりになります。チェロを抱えて古都の春を楽しみませんか。

詳細については2月下旬頃、郵送でご案内致します。

日時：2006年4月15日(土)13:30~15:30予定  
主宰：上村昇先生  
場所：京都市内 会場未定

おすすめの会場をご存知でしたら、ぜひ事務局へお知らせ下さい。

まず、福代さんによる「美女と野獣」のメロディの演奏では、初心者ながら堂々とした演奏で、基礎的なチェロの演奏の技術を披露されました。再度拍手を送らせて頂きます。次に、参加者の中で一番若い丹野さんの演奏では、自分の若い頃を思い出しました。Goltermannのコンチェルト第5番を正確な技術で演奏され、惹きつけられました。河野さんは、Popperのハンガリー狂想曲を、独自のスタイルでじっくりと演奏されました。石島さんのPaganiniは、観客2名のオペラのバルコニーシーンの再現の貢献もありましたが、非常に表現豊かに演奏されました。石島さんは、それ以外にも私の恩師Janos StarkerのアレンジによるVivaldiの2台のチェロのためのコンチェルトを私と演奏して下さいました。

今回、チェロ演奏という芸術が日本のプロの方々だけでなく、アマチュアチェロ奏者の方々の努力によっても健在であるということを知り、大変嬉しく思っています。最後に、このイベントの企画とコーディネートして下さいました飯田芳憲さんと溝口雅子さん、それから通訳して下さいました奥貫裕子さんに、深く感謝します。また、将来この素晴らしいグループのために、貢献できる機会があることを願っております。 Donald Moline

### コンサート情報随時募集中

日本チェロ協会ホームページ (<http://www.cello.gr.jp>) に会員の皆様が出演されるコンサート情報を掲載しています。同封の用紙にご記入の上ご郵送いただくか、同フォーマットのエクセルファイルにご入力の上Eメールでお送り下さい(送付先メールアドレス: Masako\_Mizoguchi@suntory.co.jp)

コンサートのちらしがある場合は3枚郵送下さい。データがある場合はEメールでお送りください。エクセルファイルのフォーマットは事務局にご連絡いただければ、Eメールでお送りします。

皆様からの情報をお待ちしております。

### 編集後記

年々時の経つのが早く感じられますが今年2005年も残すところわずか、皆様にとってはどのような1年になりましたでしょうか。会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

チェロ界にとっては、世界イベント「インターナショナル・チェロ・コンGRES」を日本で開催し成功できたことは貴重な歴史の1ページが刻まれたことと思います。私も今年はやはりチェロを中心にコンサート会場に足を運び、心に残る素晴らしい演奏を聴くたびに幸せな気持ちになりました。

振り返ると今年も世界各地で大地震などの天災やテロ・悲惨な事件など色々起こりましたが、来年は明るくうれしいことのほうが多い1年になりますように。皆様よいお年をお迎え下さい。

### 日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第24号

2005年12月31日発行

発行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人：堤剛

編集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー